

ブドウの早期選抜システムの確立 (R6~10)

果樹試験場

背景・目的

〈経緯〉

- 生産者や市場関係者から、皮ごと食べられる黒色系ブドウの早期育成が強く求められている。
- これまでの成長戦略研究(R3~5)において、幼苗から果実がなるまでの期間を短縮する方法を明らかにし選抜の効率化を進めた。

〈今後の課題〉

- ① 果実は早く実るようになったが...
現状、果実品質が安定する樹齢まで複数年調査しているため、選抜に長い年月を要している。
- ② 選抜後は...
新品種を早く普及させたい。そのためには、選抜中のブドウをウイルスに感染させないで維持する必要がある。



選抜期間の2年間の短縮を目標

- 若木の段階で将来の有望性を確認できる基準を作成
 - 果粒重、ポリフェノール含量
 - 皮ごとの食べやすさ など
- 選抜中ブドウをウイルス感染のない健全な状態に維持



ブドウの早期選抜システムの確立(5年目)

研究内容

1年目 2年目 3年目 4年目 5年目

1. 果実の早期選抜基準の作成 (R6~10)

若木から成木までの果実品質を継続調査しデータを蓄積
・ 果粒重、ポリフェノール、皮ごとの食べやすさ(客観的な数値)の調査

2. 選抜実生群の無毒状態での維持方法の検討 (R6~10)

選抜中のブドウの幼苗や休眠枝を使い、最小限の設備でウイルス感染のない省力的に維持できる方法の検討
・ 休眠枝 長期間貯蔵できる温度や資材の検討
・ 幼苗 少ないスペースで養成する資材の検討

蓄積したデータを統計処理し、若木時から選抜可能な基準を作成

早期選抜システムの確立

期待される成果

- 選抜の効率化、育種規模の拡大が図られ、新品種候補の選抜期間の短縮が進む。
- 品種選抜後の穂木供給が速やかになり、県内への早期普及が期待できる。
 - 本県農産物のブランド化や農業者の所得向上が図られる

新たな品種候補を早く選抜していきたい!

